

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0591100078		
法人名	社会福祉法人 北秋田市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム あいかわ		
所在地	秋田県北秋田市新田目字大野5番地1		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>小規模多機能型居宅介護事業所と併設のため、利用者同士が交流する機会があり、両事業所の職員が見守りしている。看護師が2名おり、交代で週6日間の午前中、入居者の健康管理や受診の介助を行っている。夜間は併設の夜勤者と2名で見守りを行っている。町の中心部にあり、買物や散歩に出かけると、地域の方が気軽に声をかけてくれる。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成23年2月22日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>北秋田市合川支所・消防署分署・銀行・郵便局・交番などの公共機関等が立ち並ぶ一角に位置した、穏やかで落ち着いた雰囲気のある事業所である。同法人の小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、地域密着型介護サービスが求める機能をよく研究・理解した構造となっているほか、地域との交流も、行事等への参加・招待、ボランティアの受け入れなど積極的に行われている。事業所の「理念」は職員の話し合いの中から生み出されており、サービスにおいては、入居時に利用者の人となりをしっかり聴き取り「個人史」として記録し、利用者本位の支援に活かす取り組みを行っている。看護師は併設の同法人小規模多機能事業所と併せて2名配置し、日常的な医療面のケアのほか、医療機関との連携の充実に努めている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を創り、日々実践に向け取り組んでいる。新たに理念を創り1年が経ったため、実践できているか振り返る機会を持ちたい。	職員の話し合いで作上げた「理念」を日々確認、体感しながらサービスを行っている。利用者の心身の変化に応じた「理念」の見直しにも取り組み、サービスの質の向上を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、行事等に参加いただいている。向かいの教会とはクリスマス会など定期的に交流している。また、昼食の準備には、婦人会等のボランティアに協力をいただいている。	事業者は、地域の自治会や行事への参加のほか、事業所や法人主催の行事への招待など、地域に溶け込んだ運営に努めている。また、婦人会・中学生のボランティアの受け入れや保育園児の慰問等の交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域に出向き、事業所の説明と、認知症について伝える機会を持つ予定としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の取り組み状況、外部評価結果等、会議の中で報告し、改善できるよう努めている。	運営推進会議は、2か月に1回のペースで開催しており、内容は情報交換が主になっている。	地域でのホームの役割をアピールしたり、積極的な情報提供や協力要請の機会とするなど、会議の内容や進め方を工夫し、活発な意見を交わしながらサービス向上につなげていくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃々から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者も入居しており、支援の判断に困った際には相談している。	市の担当者とは、運営推進会議のほか、サービス内容や請求等の介護保険制度の案件、手続等の相談や指導を受けている。さらに積極的な関りも検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。日中は見守りにより玄関に鍵をかけていない。夜間、徘徊等で危険と判断した場合は、食堂の入口に短時間、鍵をかける時がある。	現在、身体拘束の検討が必要な利用者はおらず、今年度、身体拘束に関する職員研修は特に行っていない。事業所は、「身体拘束に関する説明書」を作成し、利用者、家族に説明する仕組みを整備している。	常に何らかの状態、状況の変化を想定し、「身体拘束」「虐待防止」に関する研修などを行い、職員への意識付けに努めていくことが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年、学習会を行い、虐待のない介護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、学習会を行ったが、理解できていない職員が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて説明し、同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書で受付窓口を説明し、事業所内にも掲示している。相談、苦情の受付状況と対応結果も掲示し公表している。	家族からの要望や意見に、職員で話し合い対応している。苦情に対しても真摯に向き合い、事業所の考えや対策を文書にして玄関に表示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、年1回の個人面談により意見を聞き、改善につなげている。	職員が意見を出しやすい雰囲気作りに努め、ミーティングや会議で出た意見等は法人の所長にも伝えている。事業所内の役割分担、設備や物品の購入などに職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談により職員の意見、要望を把握し改善に努めている。法人では、年1回職員登用試験を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会をつくり、復命書にて回覧している。研修計画を立て内部研修も行っている。法人内の職員研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年、法人内のグループホーム職員で勉強会を行った。法人内で運営している事業所の実情を把握し、視野を広げ、自分の仕事に生かせるように、事業所めぐりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い、本人、家族の意向を聴き利用していただくように努めている。併設の施設からの入居となることが多いため慣れてから入居される方が多い。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面接を行い、本人、家族の意向を聴き利用していただくように努めている。併設の施設からの入居となることが多いため慣れてから入居される方が多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を手伝って頂いたり、興味の湧く事を見い出せるように努めているが、十分とは言えない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、日頃の様子を伝え、いつでも気軽に相談していただけるよう努めている。月1回、暮らしぶりをお便りにして知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	途切れないように努めているが、出来ない入居者も出てきた。面会に来て下さっていた友人も、入居の期間が長くなってくると機会が少なくなって来ていると感じている。	併設の同法人小規模多機能施設は廊下で続いており、デイサービスに訪れた知人と会う機会がある。また、ドライブ等の外出の機会に、公園等の馴染みの場所に立ち寄るなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立したりトラブル等にならないように見守り、仲介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、気軽に声をかけるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を十分に聞き、希望に沿えるよう努めているが、応えられないこともある。	職員は、入居時に利用者の人となりや生活歴を聴き取り記録した「個人史」や日々の会話等から、利用者の希望や意向の把握に努めている。また、利用者一人ひとりに満足度調査のアンケートを実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に生活歴を記入していただき、情報収集に努め、自宅と同じように過ごせるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族に生活歴を記入していただき、情報収集に努め、自宅と同じように過ごせるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者1人ひとりに担当者を設け、毎月の会議で状況を確認し、意見を反映して作成している。家族からは、面会時に意見等を聞くように努めている。	介護計画の作成や見直しについては、家族の意向を反映し、職員がチームとして意見やアイデアを出し合ったことが確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事でも記録に残すように努め、朝、夕申し送りを行情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	向かいの教会とはクリスマス会など定期的に交流している。調理にボランティアの協力をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が以前から通院している医療機関で受診している。	利用者が入居以前から通院している医療機関・薬局等を継続して支援している。通院は看護師が担当し、医療との連携が取りやすくなっている。日常的に血圧・体温測定、体調確認、水分・栄養摂取、排泄記録を行い、体調の変化等に関する情報を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調について気付いた事は、看護師に相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師、管理者が医療機関と連絡を取りながら話し合いや、協力体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合に係る指針を説明し同意を得ているが、検討や準備は行われていない。	終末期における対応や急変した場合の家族・地域関係者との連携については、法人全体の取り組みと併せて検討している。身体機能の低下防止の工夫についても検討が望まれる。	身体機能の低下防止について、散歩や外出等、日課を工夫することなどが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	館内にAEDを設置し講習会を行った。また毎年、救命講習を受講し、対応方法を学んでいるが十分とは言えない。看護師に24時間連絡を取れる体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方を協力員としてお願いし、避難訓練を行った。非常災害時の意見交換を行い、マニュアルを作成した。	年2回、日中、夜間を想定した避難訓練を行い、緊急連絡体制や地域との協力体制を整えている。さらに、実際の災害を想定した計画づくり、協力体制のあり方の検討が望まれる。	実際に想定し、夜間の避難場所の二次災害の危険性、天気(雨・雪)に応じた対処、被災後の避難先などを検討し、利用者の立場に立った計画が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報保護の誓約書を交わし、プライバシーを損ねるような言葉かけや記録をしないよう配慮しているが、時々、感情的になり言葉が乱れることがあるため注意しなければならない。	法人内で事業所毎に実態調査をするなど、調査・確認作業を行っており、職員の言葉かけに対する意識を高めることに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を十分に聞き、希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など以外は、一人ひとり自由に過ごしていただいているが、つい、時間に追われ職員のペースになってしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	希望の理容、美容院に行けるように支援している。女性は自分で着る洋服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を作成しているが、食べたい物の希望があった時は取り入れるよう努めている。野菜の皮むきを手伝って頂いたり、下膳、食器洗いを一緒に行っている。	利用者のできる限り、好みの家事への参加を支援している。また、会話を楽しみながら食事を準備する姿や、食後の楽しい会話などが確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分量、食事量を記録している。お粥を用意したり、ご飯の量など本人の希望に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で行う方には声かけを行い、困難な方には職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、一人ひとり合わせた声かけ、トイレ誘導、介助を行っている。	利用者の排泄の記録から、パターンや習慣の把握に努めている。職員は、利用者のプライドを傷つけないよう、さりげない声かけや誘導を行い、排泄の自立に向けた取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促し、便秘の予防に努めている。便秘の方は、薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は職員の都合で決められているが、希望があれば対応するように努めている。健康状態に関しては、看護師に相談している。	浴室は併設する同法人小規模多機能施設と共用し、利用者の希望を尊重しながら、安全で楽しい入浴への工夫に努めている。また、体調に応じ、適宜清拭や足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて休憩、睡眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の処方内容をファイルし、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、テレビ、散歩等、本人の希望に沿える様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	希望があればできる限り、外出できるように支援しているが、少数の方のみとなっている。行事を企画し外出、外食の機会を作っている。	年間の行事計画を立て、月1回のドライブや外食を楽しんでいる。また、買い物や散歩などで地域住民と触れ合う機会を設けたり、家族と協力しながら利用者が希望する場所へのドライブを行なっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設側で管理しているが、本人、家族の希望で少額を自己管理している方もいる。お金を使う機会が少ないと感じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた手作りのカレンダーを貼り、植物を置いている。毎日の掃除、消毒を行い気持ちよく過ごして頂けるように心掛けている。換気扇を使用し臭いにも配慮している。	広い食堂・居間は自然の光が溢れ、穏やかにくつろぐことができるスペースとなっている。居室のそばにも畳敷きの共用空間があり、気のあった同士と一緒に過ごせるように配慮している。不快な臭いや騒音はなく、季節感のある装飾の工夫が確認できた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ソファや畳のスペースがあり、ベランダにはイスを置いている。自由な場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込まれている方もいるが、殺風景な方もあるため、誕生会の写真などを飾っている。家具の配置など安全面にも配慮している。	居室には備え付けの介護用ベッドがあり、身体状況に応じた使用や介助ができるように配慮されている。また、使い慣れた物が持ち込まれ、家族とも相談しながら写真等が飾られていることが確認できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境をあまり変えないようにし、混乱を防いでいる。できる事は、声かけ、見守りしている。カレンダーに印をつけ、今日が何日か分かるように工夫している。		